

Ⅲ 第9回カツオ・マグロ漁業に関する研究座談会

共催 水産海洋研究会
三崎遠洋漁業研究会

日時 昭和44年9月8日

会場 神奈川県三浦商工会議所

コンビーナー 中込 淳(神奈川県水産試験場)

発表題名及び話題提供者

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1. マグロ資源研究の現状 | 中込 淳(神奈川県水産試験場) |
| 2. 漁獲規制の必要性 | 林 繁一(遠洋水産研究所) |
| 3. 新漁場、未利用資源開発の可能性 | 上柳 昭二(遠洋水産研究所) |
| 4. マグロ人工増殖の可能性 | 井上 元男(東海大学海洋学部) |
| 5. マグロ延縄漁業維持のための海洋学の役割 | 宇田 道隆(東海大学海洋学部) |
| 6. 昨今の漁況を展望して | 田中 慧(大都遠洋漁業株式会社) |

1 マグロ資源研究の現状について

中込 淳
(神奈川県水産試験場)

近年のマグロ資源研究は大別すると4つに分けられる。

第1は、現在の漁船の数が資源量に見合った数であろうか、また、さらに一步進んで、資源量を減らすことなく最大にとるにはどの位とつたらよいのだろうかという点を明らかにする研究で、普通資源診断と呼ばれている。この研究は主として遠洋水産研究所で行なわれている。

第2は、いつ、どこへ行つたらどういうマグロがどの位とれるかということ調べる研究で、これに基づいて漁況予報が行なわれる。今まで、神奈川県水産試験場はこの研究に重点をおいていた。

第3は、どのような場所に漁場ができるか、魚群はどちらに移動しているのか等について明らかにする漁場探索のための研究で、主として大学の研究室で研究されていた。

ところで、これらの研究のためには分布、種類、回遊、産卵、年令、成長等多種の基礎知識がなければならぬが、この基礎知識を作るためにはやはり多くの研究が必要である。これが第4の研究である。遠洋水産研究所浮魚資源部の前身である南海区水産研究所遠洋資源部は、かつてその全